

報道発表資料

相談解決のためのテストから No. 141

令和2年3月19日
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

サイズの小さいフライパンの傾きに注意

1. 依頼内容

「空のフライパンをガスコンロの五徳の上に置くとななめに傾いてしまう。商品に問題がないか調べてほしい。」という依頼を受けました。

2. 調査

当該品は内径が 20cm のフライパンでした（図 1）。相談者の申し出によると、当該品を調理油過熱防止装置（バネの力で鍋の底に温度センサーを押し付ける、写真）が備わったガスコンロの上に置くと傾くとのことでした。なお、当該品の表示には、フライパンが軽くて安定しない場合があるので、フライパンの傾きによるやけどや火災等の危険防止のため、300g 以上の内容物を入れてなるべく取っ手を持ちながら調理する旨の記載がみられました。

図 1. 当該品の外観

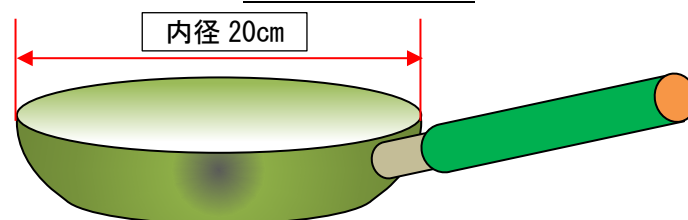


写真. 調理油過熱防止装置

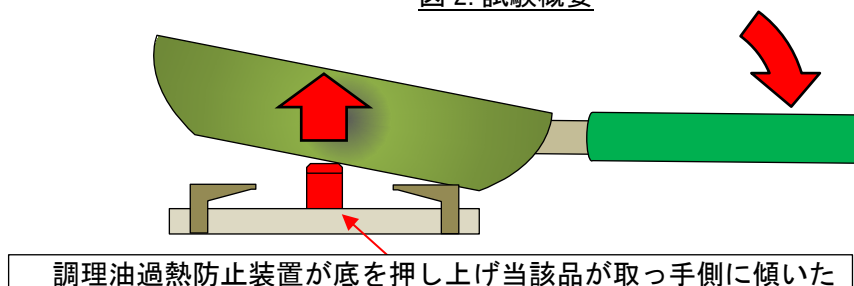


当該品及び同型品について、JIS S 2010「アルミニウム製加熱調理器具」に基づいた安定性試験を行いました。試験は縁まで水道水で満たしたフライパンを取っ手方向に15度傾けてテストを行いました。いずれも転倒は確認されませんでした。

次に、当該品、同型品、参考品2 銘柄（当該品と同様に内径が20cmのフライパン）について、調理油過熱防止装置が備わったガスコンロの上に空の状態で作せ、取っ手が五徳のツメとツメの間となる向きとしたところ、いずれも調理油過熱防止装置が底を押し上げ、取っ手側に傾きました（図2）。一方、調理物の重さを想定した300gのおもりを中央に載せた状態にしてから、同様なテストを行ったところ、いずれも傾くことはありませんでした。

また、すべての銘柄において内容物やガスコンロの状況等によっては傾く可能性があることが記載されていました。

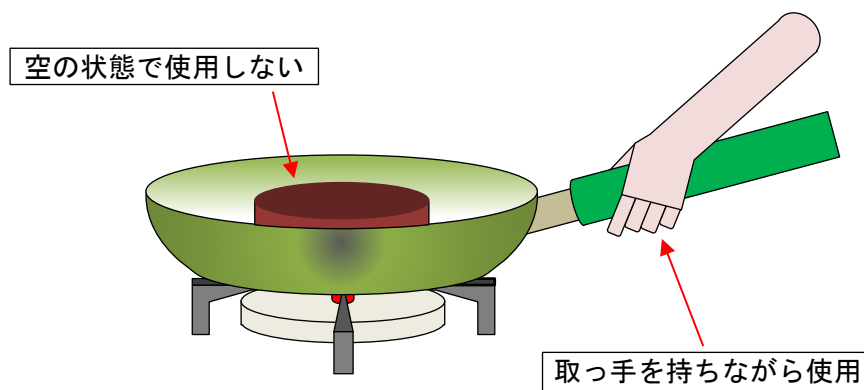
図2. 試験概要



3. 消費者へのアドバイス

サイズが小さいフライパンを使用する際には、ガスコンロの調理油過熱防止装置の影響でフライパンが傾くことがあります。その場合には、フライパンは空の状態では使用せずに、取っ手を持ちながら使用する等をして注意しましょう（図3）。

図3. フライパンの使用方法例



本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165